

1 第1学年における 学級経営の ポイント

- はじめに ……1
- 本書活用のポイント ……2
- 1年生はどのような学年? ……8
- 1年生の子どもと関わる際の基本的な考え ……10
- 1年生の学級経営の基本 ……12
- 1年生の授業と学級経営 ……14
- 1年生の個への対応 ……16
- 1年生の学級経営をより充実させるために ……18

2 第1学年の 学級経営

- 4月** 安心感を軸にすえた学級経営 ……22
 - 入学式準備 ……24
 - 入学式 ……26
 - 話の聞き方・話し方 ……28
 - 机の環境 ……30
 - 指示・発問のコツ ……32
 - トイレ指導 ……34
 - 荷物の整理 ……36
 - 着替え ……38
 - 時間の見通し ……40
 - 筆記用具 ……42
 - 整列 ……44
 - 休み時間の過ごし方 ……46
 - 給食指導 ……48
 - 清掃指導 ……50
 - 授業参観・懇談会 ……52
 - トラブル(子ども同士) ……54
 - 1年生を迎える会 ……56
 - 忘れ物 ……58
 - 朝の会・帰りの会・日直 ……60
 - 学級通信 ……62
 - 学校探検 ……64
 - 学校で学ぶこと ……66
 - 隙間時間の指導 ……68
 - 個性のある子へのスタンス ……70

- 子どもの認め方 ……72
- 注目のさせ方 ……74
- 一人一人を大切に ……76
- 学級レク ……78
- 環境づくり ……80
- あいさつ・返事の指導 ……82
- やる気を上げる声かけ ……84

- 5月** 再スタートとたくさんの初めての5月 ……86
 - 行事 ……88
 - 連絡帳・宿題 ……90
 - 運動会 ……92
 - 持ち物のルール ……94
 - 学級づくりにつながる授業 ……96
 - 休み時間と授業の切り替え ……98
 - ふわふわ言葉とちくちく言葉 ……100
 - 公共の場 ……102

- 6月** 2カ月の成長の見せどころ! ……104
 - 学級目標の立て方 ……106
 - 雨の日の過ごし方 ……108
 - 当番・係活動 ……110
 - 子どもの距離感 ……112
 - タブレット端末の使い方 ……114

- 7月** 1学期を締めくくる ……116
 - トラブル(保護者も関わる) ……118
 - 通知表 ……120
 - プライベートゾーン ……122
 - 個人面談 ……124
 - お楽しみ会の作り方 ……126
 - 1学期の振り返り ……128
 - 夏休みの事前指導 ……130

- 8月** 休養と自己研鑽でチャージする夏休み ……132
 - 2学期の準備 ……134

- 9月** 1年で最も長い2学期のスタート ……136
 - 始業式 ……138
 - 夏休み明けの学級開き ……140

避難訓練（地震） ……142

2学期の授業 ……144

10月 目標を再設定する10月 ……146

いいところみつけ ……148

読書活動 ……150

思考ツール ……152

周りを刺激してしまう子 ……154

11月 荒れがおこりやすい11月 ……156

不登校 ……158

学習につまずきのある子への支援 ……160

教室の雰囲気づくり ……162

タブレット端末活用のルールの確認 ……164

12月 2学期の成長を認め合おう！ ……166

2学期の振り返り ……168

2学期お楽しみ会 ……170

1月 2年生の0学期の1月 ……172

2年生の0学期 ……174

3学期の授業 ……176

優しさ貯金箱 ……178

自主学习 ……180

生活習慣を改善する ……182

2月 学年末・進級に向けて 子どもたちが成長を実感するために ……184

感染症・寒さ対策 ……186

6年生を送る会 ……188

昔遊び ……190

ICTを活用した学級経営 ……192

3月 2年生につなげる3月 ……194

1年間の振り返り ……196

3学期お楽しみ会 ……198

修了式 ……200

編著者・執筆者紹介 ……202

4月

安心感を主軸にすえた学級経営

▶ 4月の目標

6年間の小学校生活のスタートである4月。子どもたちがこの4月を居心地よくワクワクした気持ちで過ごすことができたなら、この1年間はもちろん、これから始まる小学校生活全体に大きな期待感を与えることができるでしょう。では、この大事な1カ月間を組織するにあたって、どのような点に留意すればよいでしょうか。キーワードは「安心感」です。

子どもも保護者も教師も「安心」を軸に

米国の主要IT企業の一つ、Googleでは、業績向上の最優先事項として「心理的安全性」の保障を掲げています。自分の気持ちや意見を気兼ねなく表出することができる環境を整えると、チーム全体の創造性が高まっていくというのです。新しいスタートの4月。「分からない」を「分からない」と言い合える土台づくりを意識することが重要です。

● 子どもの安心

新しい教室に新しい友達、新しい先生。子どもたちは期待感と同時に大きな不安を抱えて入学してきます。何をするのか、どこに何があるのか、困った時にはどうすればよいのか。一人一人が一歩先の「見通し」をもてるように指導することが、子どもたちの安心にとって非常に重要です。

● 保護者の安心

保護者は学校の最大の協力者でありパートナーです。保護者の安心が子どもたちの安心、そして教師・学校の安心へとつながります。お便りなどによる情報提供や個別の連絡、また「相談しやすい先生・学校」であるように、4月の早い段階で保護者向けにメッセージを発信するとよいでしょう。

● 教師の安心

子どもたちや保護者に「安心」を提供する教師自身が一番多忙で不安だという状況に陥らないよう、可能な範囲で4月以前から計画を始めましょう。また、4月に行うべき指導事項や行事については、優先順位を時系列でToDoリストにまとめておくと、教師の安心につなげることができます。

注意事項

4月はとにかく多忙です。特に1年生担任は「一から」教えるべきことが多岐にわたるため、その忙しさは想像を絶するものがあります。計画通りに全てをやり遂げようとせず、一つ一つを丁寧に、慌てずじっくりと余裕をもって進めていく「心のゆとり（安心）」がとても大切です。

実話で語る「安心」の生み出し方

▶ ねらい 子どもたち、保護者、教師 三者の「安心感」を得る

ここまで、小学1年生の4月を円滑に舵取りするにあたって、「安心感」が大事な指標の1つであることについてお話ししてきました。ここでは、私自身のこれまでの経験から「安心」につながる3つの事例についてご紹介します。

安心を引き出す事例

● 笑顔のピエロ

教師3年目、初めて1年生の担任を受け持った時の話です。まだまだ未熟だった私が心がけていたことは、「いつも笑顔！ ユーモアあふれるピエロのように」でした。笑顔は「安心」を生み出す最大の武器です。教室を縦横無尽に移動して子どもたちの注目を集める。表情は恥ずかしくらいに大げさに。時には小道具を用意したり、パントマイムをしたり。子どもたちに「先生のお話は楽しい」「また聞きたい」と思わせることで、自然と話を聞くマナーを養うことができました。

● 魔法の温かいミルク

ある朝、女の子の保護者から学校に電話がありました。理由は分からないけれど、学校に行きたがらないとのこと。女の子に電話を代わってもらおうと、私はこう語りかけました。「先生も1年生の頃、学校に行きたくなくなっちゃったことがあるんだけど、お母さんがあったかいミルクを作ってくれてね。飲んだらびっくり！ 元気が出て学校に来ることができたの」。その後、彼女は少し遅れて無事登校することができました。お母さんに魔法のミルクを作ってもらったのだそう。数年後、保護者から当時の対応が大変ありがたかったと感謝のお言葉をいただきました。

● コントロールしない勇気

北欧デンマークに学校視察に行った時のこと。現地の先生の言葉で印象的だったのが「子どもをコントロールしようとしない。そもそもそんなことはできない」というもの。私たち教師は、子どもたちに「あるべき」姿を過度に期待し、そうならないことに不安やストレスを感じてしまいがちです。「安心」な環境の中で、子どもたちを「導き促す」視点が必要なのかもしれません。

事例から学ぶポイント

さて、これらの事例から学ぶポイントは何でしょうか。私は「遊び」ではないかと考えています。「ユーモア」という意味での「遊び」が必要であると同時に、「余白・余裕」という意味での「遊び」をもつことが重要です。

入学式準備

ねらい

入学式の準備を全職員で協力しながら見通しをもって行う。

指導のポイント

入学式は、小学校6年間のスタートとなる大切な行事です。教師以上に、子どもたちや保護者は大きな期待と不安を胸に抱いていることでしょう。一方で、4月のはじめは、慌ただしい毎日が続きます。見通しをもって準備をすること、最終確認をしっかりと誤りがないようにすることがとても大切です。

計画的な準備を

短い春休みですが、入学式に向けてやることはたくさんあります。関係する職員との打ち合わせ、幼稚園や保育所との引き継ぎなど、連携を図りながら計画的に準備をしていきます。準備に漏れがないように、チェックリストを作り共有するとよいでしょう。リストは、職員室の見えるところに貼っておきます。いざ、配付物をひとまとめにしようとした時に、準備していないお便りがあった、などといったことがまれにあります。進捗状況を学年だけでなく他の職員にも知ってもらうことが大切です。

また、昨年度の1年生担任にも事前に話を聞きましょう。特別支援学級に新1年生がいる場合には、支援級担任ともしっかり連携していかなければなりません。どんな1年生になってほしいか、学年団で話し合いながら、まだ見ぬ子どもたちとの出会いを想像し、準備を計画的に進めていきましょう。

チェックリスト作成の例

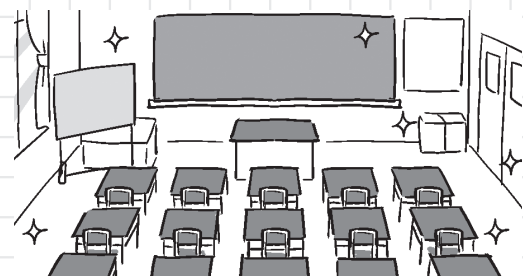
入学式前のチェックリスト

- 名簿作成 作成後チェック
- 幼稚園・保育所などからの資料の確認
- 出席簿の作成
- 教室環境整備
- 入学式の細かい案の作成と共有
- 入学式の次の日から使う教材の発注
- 入学式当日に使う資料作成
 - ・ 担任名の掲示
 - ・ 名札への名前の書き方
 - ・ トイレの使い方
 - ・ 学校の決まり
 - ・ 姿勢
 - ・ 話の聞き方、話し方
 - ・ 机、ロッカーの使い方
- 入学式当日の配付物の確認
- 入学式のしおりの作成
- 入学式当日に子どもや保護者に話す内容と練習

準備の流れ

01

教室環境を整える



しっかり清掃と安全確認をします。机にささくれはないか、壁に画びょうの針部分だけ残っていないか、細やかにチェックしましょう。

子どもたちがスムーズに身支度や片付けができるように、物をしまう場所も動線を考えながら準備しましょう。

02

名簿を作成し、慎重に確認する



入学式当日に掲示・配付するクラス名簿や通学班の名簿などを丁寧に確認します。ここでの誤りは、学校への信頼感に関わるものです。漢字や読み仮名などを慎重に複数人で確認しましょう。

03

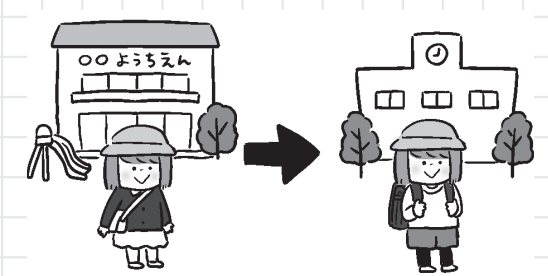
当日の流れを確認する



入学式当日の動きを検討し確認します。当日、保護者と子どもたちはどのように移動し、何をするか、入学式とそのあとの学級指導で話す内容、子どもたちがトイレに行くタイミングと方法など、細かなシナリオを準備し、学年以外にも関係する職員で確認します。

04

幼稚園・保育所との連携



幼稚園や保育所から入学してくる子どもたちについては、事前に情報の引き継ぎをしていることと思います。集団の中で話を聞くのが苦手な子、健康上配慮を要する子など、改めて情報を確認します。必要に応じて支援の手だてを準備しておきましょう。

清掃指導

▶ 清掃力は人間力

最近、大人にとってもそうじの仕方を学ぶことがブームとなっています。環境を整え、物に居場所を与えることで思考を整理し、段取り力を身に付けることができます。

▶ システム構築と選べる余白

主体的に清掃活動に取り組む力を身に付けると同時に、システムチックで効率的な指導も実現したいものです。そのためには、「明確な役割分担」と「自分で選べる余白」のバランスが大切です。

4月のうちは、教室や廊下など教師の目の届くそうじ場所に限定し、役割ごとの仕事内容、時間配分、道具の使い方などを丁寧に一つ一つ、時間をかけて指導します。仕事に慣れてきたら、きれいにしたい場所を自分で探してそうじできるような時間をつくるのもよいですね。

清掃指導のポイント

- ✓ 明確な役割分担
- ✓ 自分で選べる余白

1じも頭もきれいに
スツキリ!



指導の留意点

01

ぞうきんがけ



ぞうきんは横に長くなるよう開いて床に置き、両手を広げて押さえます。腰を上げ、手に重さが伝わるようにして進みます。こうすることで、床面とぞうきんが密着し、しっかりと汚れを拭き取ることができます。

02

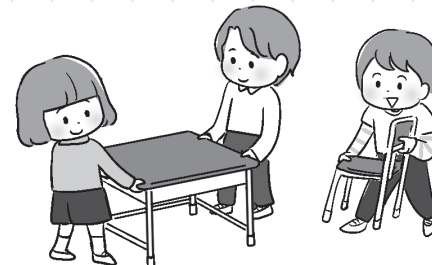
ほうきとちりとり



ぞうきんを先導するようにして進みます。絵の具で色を塗るイメージで、塗り残しがないように一方向にはいていきます。はいたゴミは一箇所に集め、小ぼうきとちりとりで集めます。集める場所をビニールテープなどで示しておくのもよい方法です。

03

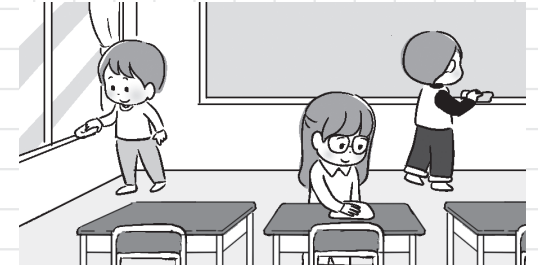
机運び



1年生のうち、机は2人で向かい合って運ぶとよいでしょう。椅子は机の上に上げて机と同時に運ぶか、1人で椅子のみを運びます。机運びとぞうきん、ほうきが上手に入れ違えになるようにするとスムーズです。

04

その他の場所



黒板は板面と受けの部分を拭き上げます。子どもの机や教卓などは、専用のぞうきんを用意し、きつく絞って水拭きします。また、窓のサッシや棚の整理など、教室環境に応じて当番を割り当てていきます。

学校探検

ねらい

学校にはどのような施設があり、どのような人が関わっているのかを理解することができる。

指導のポイント

この学習は生活科で行っている学校も多いと思います。1年生にとって初めての探究的な学習です。ここでのポイントは、素材との出会わせ方とゴールの設定の仕方です。子どもたちが思い思いに取り組んでいけるように支援していきましょう。今回は、数時間にわたって行う学習について紹介します。

素材の出会い方とゴールの設定

指導のポイントに挙げた、素材との出会わせ方とゴールの設定の仕方についても少し詳しくお伝えします。

素材との出会わせ方

よくやる方法は、先生がクラス全員を連れて、子どもたちの学習や生活に必要な場所を見せるという方法です。場合によっては、2年生や6年生に紹介してもらうのもよいでしょう。教室に戻ってきたら、「もう1回行きたい場所はあるかな?」と聞いてあげましょう。この時、子どもたちの発表する場所こそ、その子の探究していきたい場所なのです。このようにして、子どもと素材を出会わせていきます。

ゴールの設定

子どもの探究が進んできたら、ゴールの設定をします。例えば、子どもたちが保護者に学校の案内をするという方法があります。保護者に自分のお気に入りの場所を説明するために、子どもたちの探究にも熱が入ります。



活動の展開

01

学校にはどんなところがあるのかを知る



音楽室や保健室、トイレなど子どもが学習や生活で使う場所を子どもたちに見せていきます。学校の校舎図などを持たせておくとよいでしょう。できるだけ多くの場所を見せてあげたいので、ここでは簡単な説明にとどめます。

02

今度は自分が行きたい場所を決めて行ってみる



子どもが学校中を探検します。朝会などで事前に他の先生方にお知らせしておきましょう。当日は、子どもたちの取り組みの様子を見ていくようにします。学年の先生に協力してもらって、複数の先生で見守ると安心です。

03

自分で調べたり、インタビューしたりする



子どもたちと相談をして、保護者に学校案内をすることを決めておくと、調べる目的が明確になります。子どもたちは、保護者に上手に説明するために、自分で調べたり、インタビューをしたりします。ある程度調べたら、子ども同士で学校案内の練習をします。

04

学校案内をする



事前に学年の先生へ相談し、管理職の先生からの許可を得ておきましょう。また、事前に保護者にご案内の文書を配布します。当日は、子どもたちの取り組みの様子を見ていき、困ったことがあればサポートします。

当番・係活動

ねらい

子どもたち自身がクラスをつかっていく当事者意識をもつ。

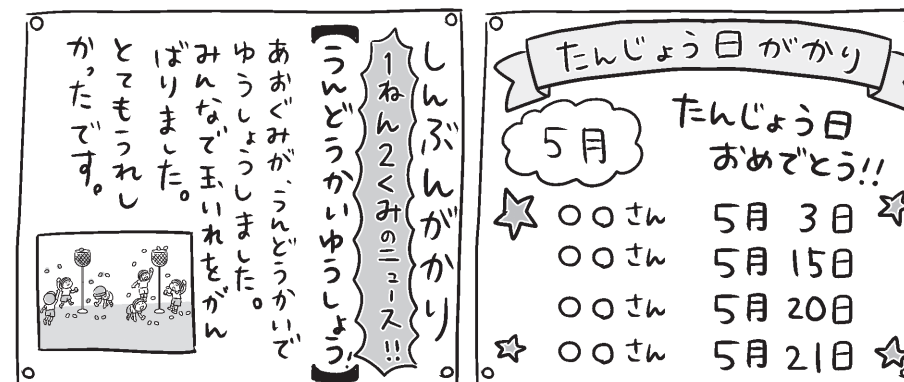
指導のポイント

「当番」と「係」は似ているようで大きく違います。「当番」はクラスで1日過ごしていく上で、なくてはならない仕事です。例えば、黒板消しやあいさつのようなものです。それに対して、「係」は特になくとも困らないが、それがあつたらみんなが楽しめたり、みんなのためになったりする活動です。例えば、レク係のようなものです。そこをしっかりと区別して取り組んでいくことが重要です。

当番のチェック表

黒板やホワイトボードに貼れるよう、裏表が磁石になっているシートを使います。裏表で色が違うとより見やすいです。

あやべ	こくばん
あしだ	◎
いちかわ	でんき
うめの	◎
えがしら	あさのあいさつ
おおき	まど



活動の展開

01 当番活動

当番活動は、クラスで1日過ごす上でなくてはならない仕事です。ただ、教師から一方的に与えるのはいけません。1年生はお手伝いが好きな子がとても多いです。黒板を消したり、ノートを配ったり快くやってくれます。そういった姿を取り上げて、当番活動を始めるきっかけにするのがよいでしょう。

当番の例

- 黒板をきれいにする当番
- 次の日の時間割と持ち物を書く当番
- 朝や帰りや給食のあいさつをする当番
- 宿題の返却をする当番
- 日付や曜日を変更する当番
- 窓を開け閉めする当番

当番のチェック方法

当番をやらせっぱなしではいけません。チェック機能が必要です。例えば、裏表が磁石になっているシートを使います。シートの表には当番名、裏には「◎」や「完了」など書かせます。そして、ホワイトボードに書いた子どもの名前の横に先程の磁石シートを表向き（当番名）で掲示し、当番が終わった人は磁石シートを裏向き（◎）にすることになっています。そうすれば、仕事が終わっているのかが一目で分かります。連続で仕事をやっていない子には声をかけてあげます。

02 係活動

係活動は、なくてもクラスは困らないけれど、あればクラスみんなが楽しめたり、クラスのためになったりする活動です。最初はなかなかアイデアが思いつかないこともあるので、少し例を示すとよいでしょう。

係の例

- 新聞係（クラスで起きた出来事について新聞を作る）
- 生き物研究係（生き物について調べて、ポスターにまとめる）
- 陸上係（リレーやタイム測定など陸上に関するイベントを企画する）
- 誕生日係（誕生日の子をお祝いするイベントを企画する）
- 電車係（電車についての本を作る）

係活動を盛り上げるには

当番活動と違って、係活動は自主的な活動ですので、やらないことを厳しくチェックする必要はありません。ただ、やはりやるからには盛り上げていきたいものです。そのためには、子どもたちの希望をできるだけかなえてあげることです。例えば、電車係の本を「人数分印刷してほしい」と言われたら、そのようにします。子どもたちの「やりたい」がかなえられるからこそ、次への意欲が起こるのです。

お楽しみ会の 作り方

ねらい

みんなと協力して準備し、自分だけではなく、友達も楽しめるようなお楽しみ会ができる。

指導のポイント

1年生の1学期のお楽しみ会。楽しそうな響きですが、肝に銘じておくべきことは、「失敗する確率が高い」「自分だけ盛り上がってしまう」ということです。なので、以下の3点がポイントです。それぞれについて紹介します。

- ・お楽しみ会の目標を決めること
- ・役割を決めること
- ・先生はサポート役をすること

会を運営する経験を積ませる

子どもたちが楽しみにしているお楽しみ会は、幼稚園・保育所と小学校では大きく違うことがあります。幼稚園や保育所では、お楽しみ会に参加することはあっても、運営することはほとんどありません。一方、小学校では自分たちで計画し、運営していきます。7月のお楽しみ会はおそらく初めての経験になります。なので、「お楽しみ会はこういうものだ」という経験をさせることが大切です。うまくいかない場合は、教えてやってみせる。そして、次回につなげるようにしていきましょう。



活動の展開

01 当日までの準備

まず、目標を決めます。子どもたちは、「みんなが楽しい」「みんなが笑顔になる」などの案を考えます。しかし、「楽しい」「笑顔になる」は人それぞれ違います。そこで、「一体どういうことをすればみんなが楽しくなるの?」と目標に込められた思いを全員で共有します。後で子どもたちが忘れないように、掲示しておくのもよいでしょう。お楽しみ会の活動を振り返る際にも、目標があるとやりやすいです。

そして、目標達成するために、何をすればいいのかを話し合います。ドッジボールなど意見が出たときに、それで目標が達成できそうかを考えます。

次に役割を決めます。ここでは3点あります。

1つ目は、その係が必要なのかを検討させることです。目標と照らし合わせて、「その係があるとみんなが楽しくなるの?」と考えさせます。それでも必要な係だと子どもが言えば、「もしうまくいかなかったら、次回はどうするか考えようね」と伝えましょう。

2つ目は人数です。決定する前に、予め人数の目安を子どもと決めておきましょう。増減については、希望する者同士で最終的に決定させてよいでしょう。

3つ目は一人一役を担当することです。どんな役でも構いませんが、責任をもって取り組ませるようにしましょう。

02 お楽しみ会当日の先生の役割

当日の先生の役割はサポート役です。あくまでも主役は子どもです。自分たちで計画したことを最後まで取り組ませるため、先生はお手伝いに徹します。これは成功させることがポイントではなく、お楽しみ会の成功例を子どもに見せるためのお手伝いです。

しかし、いくら先生がサポートしても、子どもたちが初めてのお楽しみ会を成功させることは難しいでしょう。その時は、お楽しみ会の後に振り返る時間を取り、次回への課題を話し合しましょう。以下が先生の主なサポートの内容です。

- ・移動時や出し物の入れ替えの際の声かけ
- ・話がしやすいように子どもを落ち着かせる
- ・トラブル対応

お楽しみ会が終わったら、振り返りをします。ここでは、成果と課題について話し合います。子どもたちはうまくいかなかったことに目を向けがちになるので、うまくいったことについても目を向けさせます。

話し合いの終盤は、先生が価値付けをしましょう。初めてのお楽しみ会を運営できたこと、当日楽しむ様子が見られたことを褒めてあげましょう。また、課題については、嫌な思いをした子どもたちに寄り添い、改善することが大切であることを伝えます。

最後に、「今回先生がお手伝いをしたけど、次回は自分たちでお楽しみ会ができるといいね」と励まします。

始業式

▶ 2学期初日をスムーズに

長い夏休みを終え、学校生活に戻ってくる子どもたち。久々の学校生活に期待と不安を抱えているはず。ここでは、2学期初日のスムーズなスタートのためのアイデアを紹介します。

▶ 安心して登校できる最大限の配慮を

2学期が始まるこの時期に、未成年の自殺件数が増加するといったニュースを聞いたことがある方も多いのではないのでしょうか。長い夏休みは子どもたちにとってよい休息となる一方で、大きな環境の変化も生み出します。子ども

たちが安心して始業式当日に登校できるように、最大限の配慮と計画を行うようにしましょう。

▶ 始業式までにすべきこと

1学期までに登校しぶりなど、気になる面があった子どもに対しては、始業式の1週間前を目安に個別に連絡をするようにします。家庭での様子はどうか、2学期に向けてどのような心境にいるかなど、丁寧に聞き取りを行います。本人が望むなら、始業式前に学校に予備登校をし、不安を払拭することも考えられます。

▶ 始業式当日にすべきこと

始業式当日に最も大切にしたいことは「いかに子どもたちに『安心』を与えられるか」ということです。教師自身が焦って「あれもこれも」とタイトな日程を組むのではなく、余裕もった計画を意識しましょう。



期待を高める始業式アイデア4選

01 暑中見舞いの仕掛け

暑中見舞いに「仕掛け」をしてみましょう。例えば、2学期に向けて伝えたいメッセージを一字ずつに分解し、出席番号順にはがきに記します。「始業式にこのはがきを持ってきてください。みんなの言葉が合わさるとメッセージになるよ」といった具合にして郵送します。

また、「始業式にはとっておきのニュースがありますよ」や、「スペシャルプレゼントを用意して待っています」など、期待感をもたせる仕掛けもよいかもしれません。必ずしも手の凝ったものでなくても大丈夫。2学期の行事に関することをニュースにしたり、旅先で手に入れた小物（貝殻など）をプレゼントにしたりするのもいいですね。

02 提出物の回収時がチャンス

夏休みの提出物回収のタイミングこそ、子どもたちと1対1で話す絶好のチャンスです。「後ろから集めてきてください」などと、せっかくのチャンスを逃してしまっはいけません。

まずは、宿題や通知表など、提出するものの確認と順番を全体で確認し、机の上に用意をさせます。出席番号順に呼び出し、提出する間に一言二言声をかけます。一人一人長い時間は取れませんが、30秒を目安に、1学期の頑張りから教師が期待していることなどを伝えましょう。待っている子たちには、2学期のめあてカードや当番活動の希望表などを記入して待つように指示します。

03 シルバーの3日間

始業式からの3日間は、2学期の学級経営の良し悪しを占う重要な期間です。1学期にクラスが荒れてしまっても、この3日間でクラスを劇的によみがえらせることが可能です。

まずは、本書4月の全項目に目を通し、学級経営の基本を確認します。話の聞き方、休み時間の過ごし方など、子どもたちに関することはもちろん、指示・発問の仕方や言葉遣い、時間管理など、教師自身に関することについても丁寧に振り返りを行います。

始業式初日は、こうしたことを基に、子どもたちに語りかける時間を取ります。子どもたち自身が2学期の目標をもてるような手だてと「語り」を考えましょう。

04 1時間は授業を

初日は何かと忙しくしがちですが、1時間だけでよいので授業をすることを強くおすすめします。授業を行う目的は、「褒め」の場をつくり出すことです。

授業は、「シルバーの3日間」の指導直後に行くと効果的です。適切に教師の思いが伝わっていれば、子どもたちはいつになく集中して授業に参加してくれるはずです。

この姿を十分に認め、褒め、できれば写真などで記録しておきます。また、教師もこの1時間を最高の授業となるよう綿密に準備をします。「授業が楽しい」と思わせるのです。5月「学級づくりにつながる授業」(96ページ)も参考にしてみてください。

自主学習

ねらい

子どもが家庭でも学びを追究していく姿勢を培う。

指導のポイント

自主学習は1年生には早いのではないかという意見があります。しかし、これまで私が取り組んできた体感としては逆です。1年生はすぐに自主学習に慣れて、むしろとても質の高い自主学習が提出されます。1年生のうちから与えられた課題(宿題)をこなすだけでなく、自分で何をやるのかを選択し、追究していくのを習慣化することは非常に大切なことです。

▶ 自習学習メニュー表の例

じしゅがくしゅうメニューひょう

おすすめバッチリメニュー

- ・きょうのじゅぎょうのふくしゅう ・かんじ
- ・かんじのことばあつめ ・かんじのぶんあつめ
- ・いみしらべ ・こくごのおんどく
- ・いえてやっているもんだいしゅう ・テストのまちがいなおし
- ・テストにむけて ・さんすうのけいさんれんしゅう
- ・さんすうのぶんしょうだいづくり(しきとこたえも)
- ・しやものがたりやきょうかしよのぶんをうつす

おすすめワクワクメニュー

- ・ものがたりづくり ・にっき
- ・うそそにつき ・せんせいかんさつにつき
- ・うれしかったことベスト3 ・はいく(五・七・五)
- ・すてきなともだちしょうかい ・かぞくのしょうかい(ペットも)
- ・すきなものしょうかい ・ぎょうじのふりかえり
- ・とうばんのれんらく ・おすすめのほんのしょうかい
- ・にほんちずしらべ ・せいかいちずしらべ
- ・れきしのじんぶつしらべ ・こっししらべ
- ・しんぶんのきじにコメント ・ニュースについておもうこと
- ・しよくぶつしらべ ・せいざかんさつ
- ・みじかなハテナさがし ・おりょうりしらべとちょうり
- ・ずかんしらべ ・ピアノのれんしゅうときょうのポイント
- ・ことわざまんが ・おてつだい(やったことときづいたこと)
- ・じぶんのサインづくり ・キャラクターづくり
- ・なわとび(メニューとかいすう)
- ・こうさく(つくりかたとかんせいしゃしん)
- ・しゃしんでしょうかい(しゃしんでいろいろのものをしょうかいしてみよう)

ばんごう ひづけ・じかん

① 9月28日(木) 7:55~8:25

まるつけと
なおしまで

さんすうだけこくごだけで
1ページでもよい

かならずかんたんな
ふりかえりをする

バッチリメニュー
さんすう

ワクワクメニュー
きょうりゅうのすがた

ナノティラノス
ティラノサウルスか

・にくしよく(にくをたべる。)

・5m(おとな4~5にん)

・ちいさなティラノサウルス

ふりかえり
よかった なおす

30ぶんでやることせんをじょうぎ
ができた。 でひくこと。

くくご
山 た 山 山 木 木 木 木
ぐ か 山 の よ 木 木
ち お や サ つ う 木 き モク
山 山 ま ン く 木 ク
か 山 山 え 山 木 ・
山 山 の 木 木 木 木 木 木
の 山 木 木 木 木 木 木
て 山 と 木 木 木 木 木 木
う

【参考文献】伊垣尚人著(2012)『子どもの力を引き出す自主学習ノートの作り方:子ども自らが内容を選んで、主体的に楽しく学習できる!』ナツメ社

活動の展開

01 自主学習の目的

学びは学校だけで行うものではありません。常に学び続けていく姿勢は、急速に変化していくこれからの時代、欠かせないものです。そして、自分が好きなことを選んで、それを追究していくことこそが本来の学びの姿であるはず。それが、先生から与えられることに慣れてくると、常に先生が何か出してくれることを求めてきます。それではいけません。

一方で、自主学習に対して、「1年生には無理なのではないか」という不安が保護者にありますので、丁寧な説明は必要です。授業参観の1コマで上記のような説明をしながら、一度自主学習を親子でやってみるのも一つの方法です。

自主学習で大切なのは、**自分が好きなことを追究すること**です。ですから、絶対に保護者が強制することがないようにお願いしておきましょう。自主学習に不安を抱える保護者に安心してもらうために、最初は先生が作ったプリントなどを配ってもよいです。徐々に自分で取り組めるようにしていきます。

また、何でもよいと言っても、昆虫など本当に好きなことばかりでは心配という声も実際にあるでしょう。ですから、自主学習には大きく2つ。「バッチリメニュー」と「ワクワクメニュー」という2種類のものを作っておきました。

02 バッチリメニュー

バッチリメニューは、「算数」「国語」など学校の時間割にある教科の枠から選んだ学習です。最初は、ドリルや漢字など何をやるのかを考えなくてもよいものを作る子が多いです。しかし、しばらくすると、授業でやったことを発展させてくる子が出てきます。

例えば、算数で三角形を学んだら、四角形の場合ではどうなるかを調べてきます。国語で詩を学習したら、自分でオリジナルの詩を作ります。授業をもう一度自分なりに再構成してまとめ直す子も生まれてきます。そういった子を積極的に紹介し、授業を深めていけるようなバッチリメニューに移行できるように支援します。

03 ワクワクメニュー

ワクワクメニューは、自由研究のようなものです。つまり、自分が好きなものなら何でも書いてよいのです。制限はありません。ゲームでもスポーツでもアニメについてでも、虫についてでも、駄目なものはありません。自分の好きなことを追究することはとても楽しいはず。これも遊びのように見えて、実は大きな力になっているのです。

ただ、中には好きなことをやってよいと言われても何をやってよいのか分からない子がいます。その子たちのために自主学習メニュー表を作っています。メニュー表や仲間の自主学習を見ながら、徐々に自分オリジナルになっていくことを期待しています。